

閉会中の調査報告

福祉教育常任委員会

開催日時 令和元年5月9日(木) 午前9時20分～11時38分
出席者 立入委員長、藤川副委員長、森委員、加藤委員、細川委員、奥村委員
説明員 教育部長、教育部次長、学校教育課長、生涯学習課長、建設経済部土木建設課係長

○所管事務調査

通学路の安全対策等について

- ・市道吉永山手線の開通に伴い、通学路としての活用について現地調査

市道吉永山手線の供用開始に伴い三雲小学校、甲西中学校の児童・生徒の通学路としての活用を求めて現地調査を行った。当日、市建設経済部、三雲小学校教頭、甲西中学校教頭がそれぞれ参加し、協議を行った。

「現地調査」

市道吉永山手線が供用開始されながら、通学路として利用されていなかった問題で各委員から関係者へ質問。当初、新設道路の西側の竹藪が治安上危険としての判断で通学路としていなかった。建設経済部より竹藪についてはほとんどが切り取られ、見晴らしもよく明るくなっていると説明。

小中学校教頭からの説明で、地元区長、PTA役員、小中学校の関係者で協議し、当初、迂回していたが、治安上問題ないと判断し、市道吉永山手線の全線を小中学校の通学路として活用することになったと報告。



「委員会での質疑」 (現地調査のあと開催)

委員からは、新しく完成した道路をうまく通学路として活用してほしい。朝の通学時に歩道一杯の小学生が通学する。中学生は小学生を避けて車道を通学しており、自転車で歩道を通学することもあるので、歩道一杯にならないように小学校での指導をしてほしい。

北山台の通学路で、車道がたわんで水がたまり、中学生が通学するのに危険であり、建設経済部に要望して欲しい。

正福寺から岩根小学校への通学については、遠距離通学になっており、途中民家もなく、圃場整備された田園部を通学しているが、流れが非常に急な水路があり危険。また、不審者の出没する危険もあり改善が必要。コミュニティバスの活用を考えるべきではないか。

建設経済部からも参加し、市道吉永山手線の西側から市道旧東海道線までの区間に側溝蓋をすることが確認された。

○その他

第2期湖南省市スポーツ推進計画（案）について

平成26年12月に策定された「湖南省市スポーツ推進計画」は、「ずっとここに暮らしたい！スポーツでつながきらめき湖南」を基本理念としており、「自律と協働を通じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツを親しみ、いきいきと健康で豊かな未来を創る」ことを目指すことが示されている。平成31年度で計画の5か年が終了することから、スポーツを取り巻く状況の変化に応じて見直しを行うとの説明を受けた。

「委員からの質問」

スポーツフェスティバルの参加者について、年齢別などの統計はとっているのか。

成人の週1回以上のスポーツ実施率の指標が42.5%とあるが、第一期では47.5%となっており、下回る理由は。

スポーツフェスティバルの参加人数を指標として、令和5年度に1000人とされているが、その理由は。

ニュースポーツとは何をもって言われているのか。湖南省市が進めるスポーツはあるのか。

地域でのスポーツの取り組みにスポットを充てるべきではないか。

地域の運動会がなくなる方向になっている。以前はスポーツカーニバルが郡体育大会の予選として行われたが、参加者が減ってスポーツフェスティバルになった。地域の人たちがスポーツに参画できるような環境があるのか。

数字だけを追うのではなく、だれもが気軽に地域の人たちがスポーツに親しめることが大事ではないか。などの意見が出された。|